

タチバナ化成



森下陽一郎社長

え、溶剤系など特殊な製品にも対応できる体制を整えた。さらに「高純度化学品原料の精製を受託するビジネスにも乗り出す」（森下陽一郎社長）方向で準備を始めている。

森下産業の運輸倉庫部門

を分社化するかたちで1976年に発足したタチバナ化成は94年に製造業に業容を転換。98年に熊本県城南工業団地の最初の入居企業として熊本事業所を設立し、県や市の支援を受けたから事業を進めている。

強みの一つが熊本の潤沢な地下水資源を活用できること。地下水を精製した超純水と原料をタンクに投入し、混合、循環、ろ過などの工程を経て半導体の製造に使われる現像液やリンス液、フォトレジスト周辺の機能性薬液などを製造する。

品質管理体制も万全で、コンタミネーションを防ぐためタンクを製品ごとに専用化。充填作業については0・1ppmの気中微粒子を10個未満で管理するクリー

ンルーム内で行っている。「この1年間で数量が2割近く増え、稼働率はアップしている」という。

溶剤系製品に対応した第2工場は延べ床面積1222平方メートル（平屋建て）。県内の民間企業で初めてとなるppmオーダーの検査が可能なICP-MSの最新機種を導入している。「試作品の対象を変更しながらテーマ化を進めているところで、本格操業は来年春以降になる」と見通し。

化学品専門商社の森下産業の子会社で、電子材料や半導体製造時のフォトリソグラフィ―工程用薬剤の受託製造を手掛けるタチバナ化成（本社・東京都千代田区）は業容拡大へ向けた取り組みを進めている。2014年春に熊本事業所（熊本市南区）に第2工場を完成し、これまで実績を積み重ねてきた水系製品に加

高純度の電子薬剤を増産